

1. 略歴

1990年3月	東京大学大学院社会学研究科社会学修士課程修了
1995年	東京大学大学院社会学研究科社会学博士課程単位取得退学
1995年	信州大学人文学部人間情報学科文化情報論講座助手
1995年	専修大学文学部社会学科非常勤講師
1996年	富山大学人文学部非常勤講師
1998年	徳島大学総合科学部非常勤講師
1999年	岡山大学文学部行動科学科社会学・文化人類学講座講師
1999年	信州大学人文学部人間情報学科非常勤講師
2000年	筑波大学第一学群社会学類非常勤講師
2001年	岡山大学文学部行動科学科社会学・文化人類学講座助教授
2002年	信州大学人文学部人間情報学科文化情報論講座助教授
2005年	名古屋大学大学院国際多元文化専攻ジェンダー論講座非常勤講師
2006年	東京大学大学院人文社会系研究科社会学専門分野准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会問題の社会学
歴史社会学

b 研究課題

セクシュアリティの歴史社会学
少子化社会論
人口減少社会論
社会問題の構築主義アプローチ

c 概要と自己評価

概要:以下の領域を中心に研究を進めている。

- (1) 社会問題プロセスの理論化
- (2) 近代日本におけるセクシュアリティをめぐる言説の変容
- (3) 人口減少社会を前提とした制度設計・社会構想
- (4) 社会関係資本の測定を基盤にした地域再生

自己評価

(1) に関しては、少子化対策や有害コミック規制などの具体的な社会問題を取り上げ、その言説や政策の形成プロセスに関する理論形成を試みている。(2) に関しては、明治期初頭の性科学書『造化機論』の翻訳過程を追尾している。(3) については、少子化対策をやめて、人口減少を前提とした年金制度、経済成長、都市-農村間の財・サービスの分配などに関する論文をいくつか執筆した。(4) については、集落・村落レベルで社会関係資本を測定し、それが地域社会の持続可能性を生み出すかいなかに着目した研究を継続している。

d 主要業績

(1) 著書

単著、赤川学、『これが答えだ！少子化問題』、筑摩書房、2017.2
単著、赤川学、『少子化問題の社会学』、弘文堂、2018.2

(2) 論文

赤川学、「構築された性から構築する性へ——ジェフリー・ウィークスの理論的変容を通して」、『現代社会学理論研究』、11号、4-13頁、2017.3
赤川学、「社会問題の歴史社会学をめざして」、『社会学評論』、68巻1号、118-133頁、2017.6
赤川学、「少子化問題における計画のゆくえ」、『計画行政』、40巻3号、9-14頁、2017.8
赤川学、「承認問題としてのセクシュアリティ」、『青少年問題』、668号、2-9頁、2017.10

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本社会学会、理事、2015.9～2018.9